様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年４月２７日現在

研究種目： 基盤研究（C）
研究期間： 2007～2010
課題番号： 19520325
研究課題名（和文） 一致現象と等位構造の文法化の形態統語論的研究

研究課題名（英文） A morphosyntactic study on grammaticalization of coordination and agreement

研究代表者
西山 國雄（ NISHIYAMA KUNIO ）
茨城大学・人文学部・准教授
研究者番号： 70302320

研究代表者の専門分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・言語学
キーワード：文法化、等位構造、ラマホロト語、一致現象

１．研究計画の概要
本研究の目的は、一致現象(agreement)と等位構造の文法化の形態統語論的研究を行うことである。一致現象と等位構造は、共に最近理論言語学の分野で注目されている項目であり、これらには文法化(grammaticalization)が関わっていると言われている。これら2つを関連づける研究はいまだに存在しないが、東インドネシアのラマホロト(Lamaholot)語では等位構造内での一致現象が存在し、これの研究を進めることで、一致現象と等位構造の文法化の統一的な理論的説明が可能になってくる。

２．研究の進捗状況
まず等位構造の文法化の課題であるが、これは昨年英文学会で発表した内容を論文にして、学術雑誌掲載に向けて準備中である。付随構造から等位構造が派生したという文法化の仮説を、統語構造におけるラベルの変化と捉え、第1等位語(first conjunct)が投射する構造から and/with が投射する構造への変化とみなす。これにより移動を伴わない機能範疇の出現が可能になる。この際、ラマホロト語の等位構造内での一致現象が、指定部を含む一致現象として有効になる。また、付随構造から等位構造への変化が段階的でかつ多方向的という仮説を裏付けるため、凡言語的なデータを収集して実証する。
関連してラマホロト語における等位構造内での一致現象の課題も、論文を学術雑誌掲載に向けて準備中である。この研究の出発点は、第1等位語(first conjunct)が持つ格が有標か無標かにより一致に違いがみられる、ということであるが、昨年からこれに加え、パプアニューギニアのワルマン語における同様な等位構造内での一致現象との比較を行っている。ここでわかってきたのは、同じ現象ラマホロト語とワルマン語の間には、文法化の度合いに違いが見られることである。これについても更なる考察を加え、新たな見地を得たい。
文法化に関するもう1つの課題である、日本語の複合動詞の助動詞化(共著)についても、昨年の2つの学会発表を受け、論文を学術雑誌掲載に向けて準備中である。ここでも文法化が問題となってくるが、動詞を階層的統語構造のどの部分に移動させるか、ということで文法化に違いが出てくる。ここでの分析を更に進めることにより、統語範疇や統語操作が文法化に果たす役割について、理解が深まってくると思われる。
もう1つの言語変化に関する課題である、日本語の連体形の研究も、昨年度に2度発表した内容を論文にして、学術雑誌掲載に向けて準備中である。ここでは古語では単一だった連用形語尾の形態素が、統語環境に応じて違う歴史的変化を経た、という点が重要である。ここでの研究を更に進めることにより、形態的変化おいて統語構造がいかに重要であるか、ということが再認識できると期待される。

３．現在までの達成度
①当初の計画以上に進展している。
理由：当初の研究が成果をあげていることに加え、上記の通り派生的な研究も萌芽し、これも実を結びつつあるから

４．今後の研究の推進方策
上記の通り昨年度は多くの学会で成果を発表することができた（以下も参照）。今年度は最後の年だが、これらの成果を論文の形にまとめる研究を行う。

５． 代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 西山國雄、Penultimate accent in Japanese predicates and the verb-noun distinction. *Lingua*（査読有、掲載予定）
② 西山國雄、A Review of Anna Maria Di Sciullo, *Asymmetry in Morphology*, *Studies in English Literature* 50, 255-263, 2009.（査読有）
③ 西山國雄、V-V Compounds, *Handbook of Japanese Linguistics*, ed., by Shigeru Miyagawa and Mamoru Saito, Oxford University Press, 320-347, 2008.（査読有）
④ 西山國雄、Japanese Object Honorification and the Nature of Agreement, 金子義明他編,『言語研究の現在』, 344-352, 開拓社, 2008.（査読無）
⑤ 西山國雄、Approaches to Morphology, 上智大学言語学会会報 22, 119-129, 2008.（査読無）

〔学会発表〕（計８件）

① 西山國雄、「連体形の形態統語構造と歴史的変遷」（招待講演）、慶応コロキアム、慶応大学言語文化研究所（東京）、2010 年 3 月 26 日。
② 西山國雄、「Remarkable Agreement in Lamaholot: Its Typology, Development, and Constraints」（研究発表）、インドネシア諸語の研究会 2009 年第 1 回研究会、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所（東京）、2009 年 9 月 12 日。
③ 西山國雄、「Penultimate accent in Japanese predicates and the verb-noun distinction」（研究発表）、Phonology Forum 2009、神戸大学（神戸）、2009 年 8 月 24 日。
④ 西山國雄、小川芳樹「A Unified Syntactic Analysis of Atransitivity in Japanese V-V Compounds and English Particle Constructions」（研究発表）、Morphology and Lexicon Forum 2009、東北大学（仙台）、2009 年 7 月 4 日。
⑤ 西山國雄、「Penultimate accent in Japanese predicates and the verb-noun distinction」（研究発表）、Morphology and Lexicon Forum 2009、東北大学（仙台）、2009 年 7 月 4 日。
⑥ 西山國雄、「節の名詞化としての連体形—共時的分析及び通時的分析—」（研究発表）、日本言語学会第 138 回大会ワークショップ『古代日本語の形態・統語的変化—名詞化活用形の変遷とその統語的帰結』、神田外語大学（千葉）、2009 年 6 月 20 日。
⑦ 西山國雄、「付随構造から等位構造へ」（研究発表）、日本英文学会第 81 回大会シンポジウム『統語変化』(企画者)、東京大学駒場（東京）、2009 年 5 月 30 日。
⑧ 西山國雄、小川芳樹「Atransitivity in V-V Compounds, Prefixed Verbs, and Verb-Particle Constructions」（研究発表）、Lexicon Study Circle、東京大学駒場（東京）、2009 年 5 月 16 日。

〔図書〕（計２件）

① 西山國雄、ベレ出版、『日本語の教科書』、畠山雄二（編）、2009、276-335。
② 西山國雄、*A Grammar of Lamaholot, Eastern Indonesia: The Morphology and Syntax of the Lewoingu Dialect* (with Herman Kelen), Lincom Europa, Muenchen. 2007, 180 pages.